

ホノカアの町を探索するフィールドワーク（後半）

【後藤 潤（ごとう・かつ）氏のモニュメント】

Heritage Center を訪問した際に、案内の方から興味深いお話を伺いました。かつて日本からハワイに渡り、商店を開き成功を収めるものの、惨殺された悲劇の人物、後藤 潤（ごとう・かつ）氏のお話です。

後藤氏の悲劇は長い間忘れられていましたが、1966 年日系人たちにより、後藤氏の墓が改築されるなど、その存在が再び知られるようになったそうです。その背景には、後藤氏の姪にあたる、嘉屋（かや）文子さんの尽力があったとのこと。嘉屋さんは、「嘉屋日米交流基金」を設立され、日米の学生の交流に尽くされた人物で、ハワイで生まれ、日本に戻り広島市に在住され 2004 年 90 歳で死去されました。

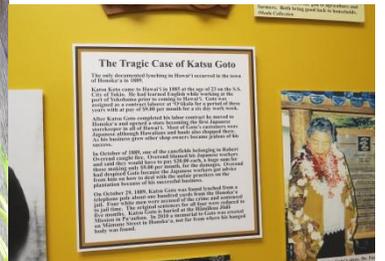
ホノカア高校のちょうど真下に、後藤氏のモニュメントがあると聞き、フィールドワークの最後にその場所を訪れました。



↑モニュメント全体像



後藤潤（ごとう・かつ）
（Heritage Center 内）



後藤潤（ごとう・かつ）
の悲劇を伝える展示（左）
と嘉屋文子（右）
（Heritage Center 内）

↓碑の前で



碑には次のように記されていました。

「日本人商店主、後藤潤氏は、ホノカア留置所から約 90 メートルの電柱で縊死しているのを発見された・・・」

1889 年 10 月 29 日付（当時の新聞記事の抜粋）

「離日前に英語を習得した後藤氏は、語学の才能を駆使し、サトウキビ労働者の人間としての尊敬と労働条件の改善を実現した労働運動の草分け的な存在だった。氏の精神の永遠ならんことを・・・」

今回の留学を通して、日本とハワイ、そして広島とハワイとのつながりをしっかり学ぶことができました。3 人が、加計高校とホノカア高校との「かけはし」となることはもちろん、広島とそして、日本とハワイとの「かけはし」として活躍してくれることを願います。